

第6学年 音楽科学習指導案

指導者 佐々木 香織
場 所 音楽室

1 題 材 和音の美しさを味わおう

2 題材の目標

- 和音の響きや移り変わりに興味・関心をもち、歌声や楽器の音色を調和させたり、音楽づくりをする活動に主体的に取り組もうとする。(音楽への関心・意欲・態度)
- 和音による音の重なりや移り変わりを聴き取り、その響きのよさを感じ取りながら、より美しい響きを求めて表現活動をする。(音楽表現の創意工夫)
- 互いの音を聞きながら合唱や合奏をしたり、和音に含まれる音を元にしてまとまりのある旋律をつくる。(音楽表現の技能)

3 題材について

(1) 教材観

歌唱曲「星の世界」は、主旋律に和音の構成音を加えて、平易な旋律で構成された合唱曲であり、初めての三部合唱にふさわしい曲である。和音の縦の響きを確認しながら横への移り変わりへと意識できるようにしたい。器楽合奏曲「雨のうた」は、短調と長調による三部形式の構成であるため、和音の響きや移り変わりの美しさを長調と短調とで比べながら味わうことができる。それぞれの主要和音の響きを確認し、美しい音の重なりを味わいながら演奏できるようにしたい。旋律づくりの教材は、歌唱と器楽での学習を生かして、和音の構成音を基に旋律やリズムを選びながらつくることのできる内容である。リズムの反復や変化などの音楽の仕組みを用いて、まとまりのある旋律をつくることができ、7年生から始まる旋律創作の学習への橋渡しともなる教材である。

(2) 児童の実態 (計〇〇名)

分析内容	質問	回 答 内 容
和音の響きや移り変わりに対する意識について	・合唱や合奏で心がけていることはどんなことですか。	きれいにハモる、音をきれいに合わせる ○名
		タイミングを合わせる ○名
	・音楽づくりで心がけていることはどんなことですか。	歌や楽器を間違えない ○名 わからない ○名
		きれいな旋律にする ○名
	・歌や楽器の演奏は、和音を意識ながら行いますか。	まとまりのある曲にする ○名 わからない ○名
		かなり意識する ○名 意識する ○名
		少し意識する ○名 あまり意識しない ○名
		分からない ○名

(3) 指導観

児童は、これまでの合唱や合奏の活動では、みんなと合わせることは意識しているものの、その合わせているものが音楽の何であるかはよく捉えられていない。特に合唱では、「ハモる」という言葉をよく使い、できた・できないの判断をしているが、「ハモる」ことの一つとして、和音の構成音を正しく出すことであるとの認識はしていない様子である。そこで、合唱と合奏の活動では、自分たちが出す音が和音を構成している意識をもたせながらの指導を行う。音楽づくりでは、和音と旋律の動きを重ねて考えられるよう、構成音シートを使用する。また、旋律をより美しくするためにリズムを少し変化させるが、リズムカードなどを用いて無理なくできるようにしたい。その際、デジタル教科書を使用し、つくり方を効果的に示していく。旋律には終わる感じと続く感じがある。その二つを対比できるように、一部形式(唱歌形式)を用いて8小節の旋律づくりを行うこととする。最後には、和音ボタン付きのキーボードで友達に和音伴奏してもらい、それに合わせて旋律を演奏することにより、協同的に学ぶ楽しさを味わえるようにしたい。

4 学習計画 (8時間扱い)

第三次 第1時

次 時	主な学習活動	評価の観点			
		関	工	技	鑑
一 1~3	・和音の響きや移り変わりを感じ取りながら「星の世界」を3部合唱する。	○	○	◎	
二 4.5	・短調の和音の響きと長調の和音の響きの違いを感じ取りながら「雨のうた」をリコーダーとオルガンで合奏する。	○	◎	○	
三 6	・和音の移り変わりを確かめながら合唱や合奏に伴奏を入れる。			○	
7	・和音の構成音から音を選んで2部音符で旋律をつくり、旋律のリズムを変化させる。(本時)		◎		
8	・旋律を仕上げ、和音伴奏と合わせて演奏し、発表をする。			○	

5 本時の学習（本時は全8時間中の7時間目）

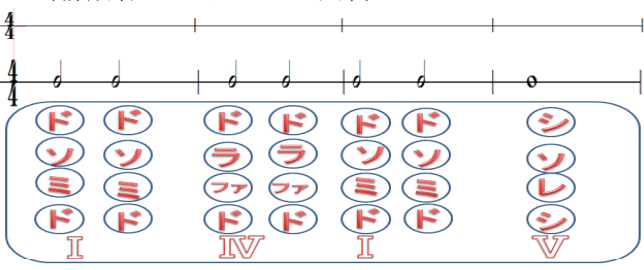
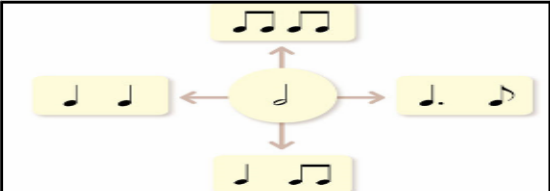
(1) 目 標

○和音の構成音をつないで、まとまりのある旋律を工夫してつくる。

(2) 準備物

・デジタル教科書・ビックパッド・キーボード・リコーダー・鍵盤ハーモニカ・楽譜・ワークシート・リズムカード・構成音シート

(3) 展 開

学習活動・内容(学習形態)	・指導上の留意点 ◎評価☆論理的思考力育成の手立て
1 和音の響きの移り変わりを聴きながら、和音の構成音を確認する。 (一斉) 2 本時の学習課題をつかむ。(一斉) 和音の構成音をつないで、まとまりのあるせんりつをつくろう。 3 構成音から音を選び、つなぎながら2分音符の旋律をつくる。(個人) 〈予想される反応〉 ・終わりの音は主音のドがいい。 ・旋律をあまり上下に広げないほうがいい。 ・同じ音の連続もおもしろい。 4 2分音符の旋律から、リズムを変化させ、気に入った旋律に仕上げる。(個人) 〈予想される反応〉 ・長調だから音を多くしてにぎやかな感じに仕上げよう。 ・短調だからあまり音を動かさず、静かな感じに仕上げよう。 ・最後は長い音を使って終わった感じを表そう。  5 和音伴奏と合わせて旋律を演奏する。(グループ) 6 本時のまとめをする。 (一斉)	・和音の響きと移り変わりを意識しながら復習ができるようにする。 ☆構成音シートを使い、どのようなつなぎ方をすれば自然で美しい旋律ができるかを考えながら行えるようにする。 (構成音シート1～4小節)  ・デジタル教科書でつくり方を示し、無理なく進められるようにする。 ☆リズムカードを使い、リズムを組み合わせながら、気に入った旋律になるまで試行をくり返せるようにする。  ・構成音シートにリズムと音を加えられるようにし、つくった旋律を記録できるようにする。 ・すべての2分音符のリズムを変える必要はなく、自然な旋律の流れで仕上げられるよう助言する。 ・続く感じや終わる感じを意識し、まとまりのある旋律になっているか、演奏しながら確認するようにする。 ・自分たちが選んだ調（長調・短調）の特徴も意識してリズムを変化できるようにする。 ◎和音の構成音やリズムカードをもとに、まとまりのある旋律をつくっている。 音楽表現の技能（演奏聴取・ワークシート） ・旋律づくりが終わった児童は、同じグループの友達に和音ボタンによる伴奏をしてもらい、それに合わせて自分の旋律を演奏する。 ・次時には、旋律を仕上げて発表し合うことを伝える。